

BUSTER KEATON as STEAMBOAT BILL JR.



ハロー! キートン
第3弾公開!

次回ロードショー

有楽町 日劇前
ニュー東宝 シネマ2 (571) 1947

■上映時間表

平日	12:00	1:55	3:50	5:45	7:40
日・祝	11:00	12:45	2:30	4:15	6:00 7:45

特別観賞券500円<一般700円 学生600円の処>発売中

■団体観賞申受中/メジャー企画
TEL (543) 6093

ミシシッピーを
猛襲するギャグ・ハリケーン!
愛と恋を抱いて
雨に泳げ、風に走れキートン!

涙ちよっぴり、笑いは連続、キートンの「ロミオとジュリエット」
話題を呼んでハロー! キートン嵐の登場!

監督 チャールズ・ライズナー
共演 アーネスト・トレンス、マリオン・バイロン、ジョー・キートン
撮影 デブロー・ジェニングス、バート・ハインズ
美術 フレッド・ガブリー
旧題 「キートンの船長」



Raymond Rohauer & Shibata Organization Inc. present

じょうきせん

キートンの蒸気船

(1928)

レイモンド・ローハワー提供 / フランス映画社配給
新版音楽クロード・ボーリング<サントラ盤コロムビア・レコード>

キートンの鍛冶屋

併映短篇 THE BLACKSMITH (1922)



キートンの 蒸気船

BUSTER KEATON in
STAMBOAT BILL J.R.
ハロー・キートン第3弾

じょう き せん

レイモンド・ローハーワー提供■フランス映画社配給

ストーリー●カール・ハルボウ
監督●チャールズ・チャップク・ライズナー
撮影●デブロー・ジュニングス/パート・ハインズ
美術●フレッド・ガブリー
主演●バスター・キートン
共演●マリオン・バイロン/アーネスト・トレンス/ジョー・キートン
新版音楽●クロード・ボーリング(サントラ盤コロムビア・レコード)



発見された傑作

「キートンの蒸気船」

「ハロー・キートン」第3弾は、近年、どの国でも、初公開当時よりひときわ高く評価されている「キートンの蒸気船」の登場。たとえば、フランス(再公開は1970年)での再評価よりは、以下のように、絶賛につぐ絶賛だ。

★何という若々しい喜劇! ギャグの巨大な送風装置だ。喜劇は、かつて、こんなにも素晴しかったのか! (ル・フィガロ紙)

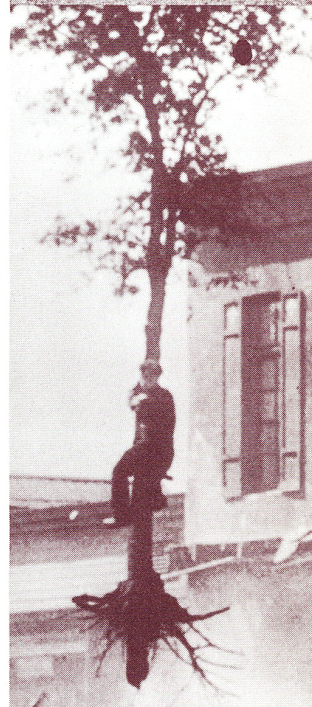
★キートン映画は、見るたびに作品の新鮮さに驚嘆する。見るたびに、これこそ最高傑作だと思ってしまう。(ル・カナール・アンシエーネ紙)

★詩人キートン、創造者キートン、偉大な映画作家キートンの才能を存分に証明する映画だ。(ル・モンド紙)

★チャップリンの巨大な影に隠されてキートンは不当にも低く評価されてきた。今日では、キートン芸術の厳格な古典的な美しさは最大級に評価されてしかるべきだ。(レクスプレス誌)

★笑いの詩人が見たミシシッピー河と蒸気船の情景——傑作だ。(パリ・マッチ誌)

★おしみなくくりだされる数々のギャグ。キートンの魅力は言葉で表現できるものではない。見てはじめてわかる楽しいさであり、それも、一度わかったら無限に楽しい楽しいさだ。(ル・ヌーヴェル・オブセルヴァトゥール誌)



物語

舞台はアメリカ南部ミシシッピー。財閥キング氏が多角経営の手を水上交通にのばして、新しい観光船キング号が就航したので、長年の間、おんぼろの蒸気船でがんばってきた生粋の南部男、ウィリアム・キャンフィールド、通称、「蒸気船のビル」(アーネスト・トレンス)は、町をあげてのお祭さわぎのなかで、ひとり面白くない思いをしている。

そんな彼に吉報が舞いこむ。生れて間もない頃に別れた息子のウィリーが帰ってくるというしらせだ。さぞかし屈強な大男に成人したことだろうと駅へ出迎えてみると、ウィリー(バスター・キートン)は、東部ボストンの流行を絵にかいたようなキザなスタイルの小男。そのうえ、ウィリーが床屋で再会した大学時代のガール・フレンド、キティ(マリオン・バイロン)は、何と、仇敵キングの娘ではないか!

蒸気船の操縦をなにひとつ覚えようとせず、キティとチャホヤしあっているウィリーに、ボストンへ帰れ! とビルは一喝。ウィリーはすこすこと駅にむかうが、その間に、キング氏の策謀でジャクソン号が営業停止になり、ビルが投獄されるのを見ては、おいそれとボストンへ帰るわけにはいかない。

折しも、ミシシッピー一帯を、未曾有のハリケーンが襲ってきた……。



解説

「キートンの蒸気船」は、バスター・キートン・プロ最後の製作作品で、プロダクションの事情からか、キートンは監督のクレディットを、チャールズ・チャップク・ライズナーひとりにゆずっている。ライズナーはボードビル出身で、キーストン喜劇のギャグマンをへてチャップリンの助手をつとめ、「マルクス兄弟のデパート騒動」の監督としても知られている。撮影は「ラスト・ラウンド」らしいのコンビであるバート・ハインズとデブロー・ジュニングス。特筆すべきは美術のフレッド・ガブリーで、重さ2トンの壁がキートンにむかって倒れる場面ほか、嵐の全シークエンスは、驚嘆に値する。

相手役のマリオン・バイロンは舞台出身でこの作品が映画デビュー。わき役はベテランぞろい、アーネスト・トレンスの、頑固だが気のいい父親ぶりが絶品といえよう。また、キートンのチョビひげをそりおとす床屋はバスターの実父、ジョー・キートンが演じている。

新版音楽は、「セブン・チャンス」「海底王キートン」と同じくクロード・ボーリング。

併映短篇の「キートンの鍛冶屋」は、ロングフェローの「村の鍛冶屋」という詩をパロディー化した楽しい佳作。

(上映時間・短篇共・1時間32分)

